



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和5年2月17日 第55号 文責 渡邊

新聞を読んで、よさを再発見！

本校では、『毎日小学生新聞』が児童用の昇降口に置かれ、子供たちが目にすることができます。

これまで読書通信『読書活動への扉を開く』では、様々な図書の紹介や本校の読書活動の取組について紹介してきました。今回は、新聞記事を取り上げてみたいと思います。

新聞には、小見出し(小さなタイトル)があります。ここに記者の主張したい思いが書かれています。古い記事になりますが、『毎日小学生新聞』(毎日小学生新聞編集部 令和4年4月20日)の一面の小見出しに「磨け！想像力・判断力／ネットトラブルを防ぐには？」と載っていました。この記事は、記者の長岡さんが静岡大学准教授の塩田先生からインタビューしたものをもとに書かれていました。

始めに、塩田先生のプロフィールが紹介されています。塩田先生はSNS(ネット交流サービス)大手のLINE社のもと、インターネットを使った安全なコミュニケーションなどを広める団体「LINEみらい財団」とともに、情報との向き合い方などを考える教材の開発に携わっているという内容が載っていました。これは、読者に塩田先生のプロフィールを紹介することで、彼がインターネットの研究に優れた実績があるということを印象付ける効果があります。

次に、いよいよ本題に入ります。まず現状についてです。「総務省によると、日本でくらす人の80%超が、ネットを使っています。」ここで「総務省って何？」と疑問に思う子がいるかもしれません。児童用の新聞のよいところは、「総務省」について「情報通信を扱う国の役所」と解説文を付けているところです。丁寧でよいですね。

塩田先生の課題の提示です。「ネットには『相手の顔が見えにくい』『コピーされやすい』『たちまち広がっていく』といった特性があります。これらを理解していないと、トラブルに巻き込まれやすくなります」

では、どうすればよいのか。ここで小見出しにある「磨け！想像力・判断力」に迫るため塩田先生の「ネットにはいくつかの特性がありますが、基本的には日常生活で働かせている想像力や判断力を磨くことで、トラブルは減らせる」ことを取り上げ、具体例を使って補足しています。

「普段、人は相手の状況や表情などを見ながら、自分との距離を踏まえて『言っているのか悪いのか』などを考えつつ会話します。ネットでは相手の顔が見えにくい分、『やりとりは文字なのか写真や動画なのか、相手との関係性はどうか、公開された場所なのか、閉鎖的な場所なのかなどの条件により、やりとりの内容は変わります。』

このとき、想像力や判断力がものをいうことを記者の長岡さんが解説しています。そして、ここからもっと深いところまで迫っていきます。

『まじめだね』『おとなしいね』『一生懸命だね』『個性的だね』『マイペースだね』の5枚のうち、あなたがクラスの友達から言われて嫌な言葉はどれでしょうか？どれが正解ということはありません。人によって言葉の受け取り方はさまざまです。同じ人でも、状況や相手との距離によって違う場合もあります。世界とつながる分、自分の常識が通じない人も少なくありません。ネットの世界は味方ばかりではありません。多様性にあふれているということを、必ず知っておいてください。」

ここで、小見出しにつながりますね。ネットトラブルを防ぐには、想像力や判断力を磨くことが必要なのです。新聞は、短い文章の中に写真や図表が組み込まれ読者にわかりやすく内容を伝えています。新聞のよさを再発見しました！



【昇降口の新聞】